

教員の養成の目標及び目標を達成するための計画

(1) 教員の養成の目標

本学園の教員養成の歴史は、明治45年の安城裁縫女学校での小学校教員の養成に遡る。以後、昭和25年開設の愛知学泉短期大学においては、昭和41年幼児教育学科に幼稚園教諭二種免許課程を設置した。また、昭和41年開設の愛知学泉大学においては、家政学部家政学科に中学校・高等学家庭科一種免許課程、昭和62年開設の経営学部経営学科に高等学校公民・商業一種免許課程、平成10年開設のコミュニティ政策学部には高等学校公民一種免許課程（現在は、経営学部・コミュニティ政策学部を統合し、現代マネジメント学部には高等学校公民一種免許課程）、平成17年に家政学部家政学科管理栄養士専攻に栄養教諭一種免許課程、平成20年に家政学部家政学科こどもの生活専攻に小学校教諭一種免許課程および幼稚園教諭一種免許課程を設置、令和2年度に家政学部ライフスタイル学科に小学校教諭一種免許課程、管理栄養士学科に栄養教諭一種免許課程、こどもの生活学科に小学校教諭一種免許課程および幼稚園教諭一種免許課程を設置し、現在に至る。

本学園の「建学の理念」は「庶民性」と「先見性」である。「庶民性」とは、人は誰でも無限の可能性を持っており、その潜在能力を開発するためには学問をして、その学問の成果を地域社会に還元することを示している。「先見性」とは、来るべき文明を予知して教育の理想像を打ち立て、その達成のために全知全能を傾注することである。

愛知学泉短期大学は、創設者の寺部だい夫妻が生涯を通して心の拠りどころとし、常に求めてやまなかった「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神を教育の基本として受け継いでいる。この四大精神の実践を通して、「家庭に温かい心、社会に新しい息吹を与えることのできる人間を育成すること」を「建学の精神」としている。したがって、これら「建学の理念」と「建学の精神」はすなわち同時に、将来の世代を育成する責任を付与された教員を養成する目標でもある。

これに加えて、近年本学では、これらを現代社会においてより発展させた「知・徳・体」に「社会人基礎力」を加えた「知・徳・体・行」という新しい教育モデルを提唱している。この教育モデルもまた当然、新時代の教員養成の目標である。

(2) 当該目標を達成するための計画に関すること

本学には、カリキュラム委員会が設置されている。同委員会は学長、教務委員長、各学科長により構成され、教員養成に関する教職課程の編成および実施について、審議実行されている。また、幼稚園教諭二種免許課程を設置している本学幼児教育学科においても、学科内に別途カリキュラム委員会を設置し、教職課程と授業実践の評価改善を行っている。

それに加えて本学では、FD委員会を設置している。学長、教務委員長、FD委員を中心に、教職課程において、教員が授業内容や方法を改善し向上させるための組織的な取り組みを行っている。

幼児教育学科では、教職課程とは別に「無限の可能性開発講座」「キャリアデザイン」の授業、また「就職対策講座」を業後に設け、幼稚園教諭養成としての更なる取り組みをしている。

日々の授業はもとより、これらの講座も更に充実させて、未来を担う子供たちを教育することのできる、高い教養と専門的知識技術、社会人基礎力を備えた教員を輩出し続けていきたい。